

平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	県南	学校名	平泉町立平泉小学校	TEL	0191-46-2202
------	----	-----	-----------	-----	--------------

**児童が友達とかかわることが楽しいと実感できる
外国語活動の授業づくり**

【ねらい】

友達とかかわることが楽しいと実感できる児童を育てるために、外国語活動の授業づくりにおいて次の3点を推進していくこと

- 1 ALTやJETを活用した「外国語活動」の授業
- 2 安心して声を発し、友達とかかわることが楽しいと実感できる授業づくり
- 3 授業改善に向けた研修の充実

【具体的な取組】

1 ALTやJETを活用した「外国語活動」の授業

ALTやJETを活用するためには、単元計画と授業計画をもとに見通しをもった授業が前提となる。そのため、次の3つの手だてに取り組んだ。

(1) 単元を構想する手立てとしての振り返りカード

Unit 5 My Summer Vacation 単元の目標		夏休みの思い出	
Class6- No. Name ()			
Unitの目標			
○ここで使う表現 I went to (行った場所), I ate (食べた物), I enjoyed (楽しんだこと), It was (思ったこと)			
時間	めあて	ふりかえり	◎○△ 興味をもったことや学習の中で気づいたことやもっと知りたいことなど
1	夏休みに行った場所や食べた物の言い方を知ろう。	自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	新出の表現
2	さまざまな場所や食べ物の言い方に慣れよう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	
3	夏休みの思い出を聞き取ろう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	
4	夏休みの思い出を聞き取ろう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	
5	夏休みの思い出を聞いたり話したりしよう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	

Unit 5 My Summer Vacation 夏休みの思い出			
Class6- No. Name ()			
時間	めあて	ふりかえり	◎○△ 興味をもったことや学習の中で気づいたことやもっと知りたいことなど
6	夏休みの思い出を書こう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	児童の実態に合わせた単元計画
7	夏休みの思い出を語ろう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	
8	夏休みの思い出を発表しよう。	チャンツやゲームをたくさん外国語で言えましたか。 自分の得意な表現やシャドーを伝えようとしたか。 進んでコミュニケーションをしようとしたか。	単元のゴール
Unit全体を通して			

単元に入る前に、振り返りカードを作成したことにより、単元のゴールや毎時間のめあてを確認することができ、担任が単元を見通すことにつながった。その際に気をつけたのは、既習と未習の洗い出しである。4年生以上は、「Let's Try」や「We Can」をそのまま活用することに難しさを感じる児童がいると考えた。そこで、単元のゴールに向けて、必要な学習内容（未習の英単語など）を「Hi, Friends」のチャンツを使用したり、アクティビティーを多く入れたりして、児童の実態に合わせて難易度を下げてから慣れ親しみができるように、単元計画を作り直した。

(2) ゴールの見通しを児童にもたせる工夫

3・4年生においては、1時間の授業がどのように進み、今日のゴールは何かを児童と共有するために、黒板脇のカードで授業の流れを可視化して示した。これに加え、5・6年生は、児童と担任が単元のゴール

ルを共有するために、次の3つ出合わせ方で単元のゴールの形を繰り返し提示した。

単元のゴールにどんなことを
するのか？

1 **第1時** ALT が Small Talk やデモンストレーションなどで行う

2 **第2時以降** HRT も同様の表現で行う

そのために、どんな表現をすれば伝えられるのかな？

3 **単元の後半** 単元のゴール（言語活動のモデルである英語表現）を予め提示する

英語表現ではどう書くのかな？

(3) ALT や JET の活用やかかわり



We have a pond in our town.
Frogs live in the pond.
I can see a big frog on a log.
I usually jog with my dog around the pond.
A big frog on a log and a jogging dog.

6年 WeCan2 Unit4

1・2年生は、国際理解教育の中で年間5時間程度 ALT や JET と授業を行った。給食時間や休み時間も交流を行い、低学年から英語に慣れ親しむ素地を養ってきている。3年生以上は、授業計画をもとに ALT や JET と事前打ち合わせを行った。休み時間に担任自ら声をかけ、本時のねらいや各自の役割を確認した。「STORY TIME」部分は、ALT と JET 主導で行い、始めは難しく何と言っているのか分からなかった児童も、リズムに乗って繰り返し慣れ親しむことで単元中盤では何文か暗唱できるようになった。単元後半では、通して暗唱できる児童が増え、その喜びを感じる児童が出てきた。

2 安心して声を発し、友達とかかわることが楽しいと実感できる授業づくり

安心して声を発し、友達とかかわることが楽しいと感じるためには、英語に慣れ親しむとともに、目的意識・相手意識をもたせたコミュニケーション活動を設定することが大事であると考えた。慣れ親しみや目的意識・相手意識をもたせるために3つの手立てに取り組んだ。

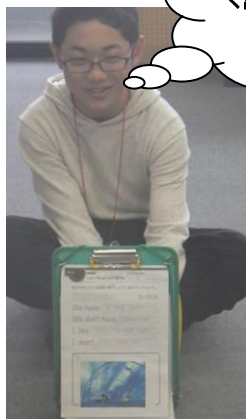
(1) 段階的な言語活動の位置づけ方

単元計画の工夫として、input から intake へ、さらに output へと段階的に児童の英語を用いた活動が増えるように構想した。また、単元最後の発表の仕方を全体の前で1人ずつ発表する形ではなく、慣れ親しませるために複数回発表する場を設けた。1回目、ペア同士で発表する。2回目、学級を3グループに分け、そのグループ内で発表する。各グループに ALT , JET , HRT が入り必要な支援を行った。3回目、3グループで発表したものを全体で交流する。全員の前で発表したい人や各グループで選ばれた人が発表することで、英語を用いた活動が増えるように工夫した。

【ペアの友達に】 上手
く言えるかな？聞いて！

【グループで】次はグルー
プのみんなに上手に言い
たいな！

【全体で】さっきより大きな
声で発表したいな



1回目 ペアで



2回目 グループで



3回目 全体で交流

(2) 帯の活動

授業時間に帯の活動を設定し、毎時間必ず活動することで、様々な表現に慣れ親しませた。

4年生…2学期～Alphabet Song

5年生…1学期～Alphabet Song, 2学期～Jingle と書く活動

6年生…5年生後半～Jingle, 1学期～Alphabet Song, 2学期～書く活動

体を動かしながら、
声を出して!



(3) 授業展開の工夫

英語によるコミュニケーション活動を通して、「相手のことをよく知ることができた」「相手に伝えたい」等の実感を得られるように授業展開を工夫した。単元のゴールとそのため言語活動で、「誰に」「何のために」伝えるのかをはっきりさせることを意識させた。

6年生 WeCan2 Unit2 日本紹介

「夏休みに来日するALTの友達に日本のよさを紹介する！」

外国の方に伝えるように、
ジェスチャーを入れようかな?

日本のいいところを伝えるのだから、
声も大きい方がいいな。

3 授業改善に向けた研修の充実

授業改善に向けて、年間の研修計画に基づいた研修を推進し、内容の充実を図った。

4月校内研究会

1時間の授業の流れを模擬授業形式で確認してから、外国語活動の授業を始めた。

6月平泉町小・中交流研修会

町内の小・中学校教員が6年生の授業を参観した。その後の研究協議から、今後の授業改善の方法を探ることができた。



6年生 書く活動を取り入れた授業

第6学年 Unit 1 This is Me! 自己紹介1 / 7時間
目標 ALTの先生や世界の子どもの自己紹介を聞いたり言ったりする。
準備 デジタル教材、児童用テキスト We Can!2、ふりかえりシート

時間	児童の活動	指導者(T)の活動と使用英語例	◎評価(方法)	準備物
0分	・ハイタッチをする。	・児童とハイタッチ Hello. (徐々に、、、指示板の英語カードにタッチして自席)		
1分	【Greeting】 ・挨拶をする。 (目直) Stand up, please. Hello, Brandon sensei, Yukose sensei, and ~sensei. Sit down, please.	・全体に挨拶をする。 (徐々に、、、個別に挨拶する。)		ちりも積もれば…
2分	【Today's Goal】 ・今日の学習のゴールを見通す。	・新しいALTの先生に自己紹介をしてもらうことや本時の目標を伝える。 ・どんな自己紹介の仕方があるか We Can!2のP8を見て、単元のゴールの形を示す。		双方方向のコミュニケーションへ 会話の萌発力
3分	【Activity】 ・ALTの自己紹介を聞く。 ・質問タイム	・Mr. Brandonに自己紹介をしてもらう。 ・P8の型に沿いながらも、プラスα自己紹介をお願いする。		板書にも!
5分	・世界の子どもの自己紹介を聞く。 Mark 他	・デジタル教材を聞かせる。どこの国なのか確認する。		デジタル教材
3分	・自己紹介をしてみる。 ペアに全体に(やってみよう)	・I like cat. I like soccer. など好きな物を複数言えればよい。		
5分	【STORY TIME】 ・話を聞いたり、言ったりする。	・毎回聞かせていく。リズムをつけてALTに全文読んでもらい、一緒に言わせるのは2行程度。 I like cats. We have a cat.		
3分	【Reflection】 ・振り返りをする。	・ふりかえりシートに記入させ、時間があれば発音する。		ふりかえりシート
1分	【Greeting】 Stand up, please. Thank you, Brandon sensei, Yukose sensei, and ~sensei.	Thank you. See you.		
0分	・ハイタッチをする。	・児童とハイタッチ See you.		

徐々に5・6年毎時間書く活動1つ

5・6年は毎時間、帯で入れる

7月（夏休み中2日間）校内研究会

マイクロティーチングの実践的な研修を全教員で行った。3チームに分かれ指導案を作成し、実際に模擬授業を行うことで、単元の計画の立て方や新出表現との出会わせ方、児童への気付け方などを実践的に学んだ。

どのように新出表現である「can」に出会わせようか？



先生の写真や絵カードを使って「can」に出会わせてみよう！



【成果】

1 安心して声を発し、友達とかかわることが楽しいと実感できる授業づくりにかかわって

○児童の意識調査結果から

外国語活動の授業は好きですか？	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
H29 5年生 10月	68%	20%	6%	6%
H30 6年生 12月	72%	22%	4%	2%

英語を使って外国人と話したり、仲良くなったりしてみたいと思いますか？	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
H29 5年生 10月	50%	35%	6%	9%
H30 6年生 12月	53%	39%	2%	6%

- ・英語でのやり取りを楽しんでいる児童、外国人と話してみたいと思う児童が6～7ポイント増えた。
- ・友達と英語を使ってやりとりをしてみたいという気持ちを育てることができた。

2 ALT や JET を活用した「外国語活動」の授業と授業改善に向けた研修の充実にかかわって

○教師の意識の変化から

- ・ALT や JET を活用した「外国語活動」の授業を行うことで、無理なく児童が学習できる授業計画を立てられるようになった。
- ・6月4日に本事業にかかわる合同研修会で、具体的な教材の提示があり役に立った。（ただし、教材の購入にあたり予算措置がなく、町教委と相談し例外的に予算の組み換えをしたことにより、何とか購入できた。）
- ・校内研修を充実させたことで、全教員の外国語活動に対する抵抗感を少なくすることができた。